

Shin Furusato Series
第2回
新ふるさと探訪

新ふるさと探訪
シリーズ「島」



今治市関前小大下
こ お げ じ ま
小大下島



小大下島は、岡村島と大下島の間にある周囲3キロ余りの島。島のほとんどが石灰岩で形成されている。明治初期から石灰岩の採掘が本格化し、第一次世界大戦当時は大手セメント関連企業が進出した。昭和30年頃には人口600人以上を数えたが、現在の人口は18戸23人。

小大下島のほぼ中央に大きな池があります。これは石灰岩の採掘跡から良質の水が湧き出て池となったもので、島の貴重な水がめとして生活環境の改善が図られました。直径約100m、海面下10m以上、貯水量は10tを誇り、平成9年までは岡村島へも海底送水されていました。
石灰岩の山肌の白と周囲の青緑はコントラストが見事で隠れた絶景スポットとなっています。



自治会会長、老人会会長
ほりかわ あつひろ
堀川 幹弘 さん(79歳)

中学生まではこの島に住んでいました。高校は造船関係の学校を選んだことから、広島県大崎上島へ、また、長崎造船短期大学で3年間学び、広島県生口島の造船会社に就職しました。その後、大崎上島を経て、島に帰ってきたのは今から10年前になります。
現在、この島でミカンを20tほど栽培し、JAへ出荷しています。ミカンは毎年剪定枝が出ますが、これは家の風呂焚きに使われています。ガスも使えるようにしているのですが、毎日1時間以上かけて煮で風呂を焚いています。
島には23人しかいませんが、毎年10月に島民だけの運動会をしています。「さんじんさん」と呼ばれるお祭りも島民が中心です。また老人会では春と秋にカラオケ大会も行います。少人数ですが、みんな仲良く元気に暮らしています。
島にいて困るのは、やはり病気になったとき。今治行きの船も台風や濃霧などで欠航することがあり大変です。でも、生まれ育った島でいつものように海を眺めながらの農業は格別です。美味しいミカンを作り、2人の子とも3人の孫たちへ送ってあげています。

特集Ⅰ
新規就農サポート事業
修了生の“今”



表紙のひと 今治市大三島町
くつぬき たかひろ
沓脱 隆博さん(写真右) 友哉くん

6
JUN / 2020
vol. 279

- 特集Ⅱ
里芋「伊予美人」販売額1億円達成への道
- ひと・ザ・ヒューマン
FC今治/株式会社今治・夢スポーツ 代表取締役社長 矢野 将文さん
- 新ふるさと探訪シリーズ「島」 今治市関前「小大下島」

